

編集委員長就任にあたって

福島県立医科大学医学部器官制御外科

竹之下 誠一

日本癌病態治療研究会は、「癌の病態や治療法に関する研究を行い、その病態に基づき、個人個人に適した治療法を確立すること」を目的に平成4年設立されました。現在までに20年超の歴史を数えます。私たちは平成21年6月には第18回日本癌病態治療研究会を福島にて開催し「福島モデル」として評価の高い産学官連携の成果をお伝えする機会をいただきました。それから2年も経たない3月に大震災が起きましたが、以前から培っていた県との強力な連携が、震災時に必要な正確かつ迅速な情報の把握や課題の共有による適切な対応に奏功しました。

さて、このたび、編集委員長を努めさせていただくことになり名誉会長の磯野可一先生、会長の生越喬二先生をはじめ、会員、名誉会員の諸先生に厚く御礼申し上げます。近年、精緻な手術療法に加え、新規化学療法薬、分子標的薬の登場、放射線療法の進歩などにより本邦の癌治療は一定の成果を上げてまいりました。しかし「癌」のさらなる制御のためには「愚直なる継続」と「新たなブレイクスルー」が必要であります。2010年4月にはFDAが免疫細胞製剤である sipuleucel-T を承認し、本邦では国会において免疫治療承認に関する議論が行われるなど行政も動いております。ゆっくりではありますが環境は整いつつあります。

ご存じのように当研究会は、「Annals of Cancer Research and Therapy」
「W' Waves」と2つの学術誌を発刊しております。英文誌である「Annals of Cancer Research and Therapy」はJ-STAGEに2004年分から収録されており自由に閲覧可能です。研修医をはじめ若い医師たちの英文論文投稿の登竜門としても機能できればと思いますので、後進のご指導をよろしくお願いいたします。

一方、W' Waves は、総説、随筆、学会、研究会の話題、座談会、仮説、最近の話題、letter to editor、original paper としない症例や研究などを主眼にし、原稿枚数にも規定を持たない極めて自由な会誌であります。機関誌にとって皆さま方の優れた論文を数多くお寄せいただくことが、その発展の源ではありますが、一方で会員の方々のコミュニケーションの場としての役割のほか、研究会からの広告や各種委員会からの連絡・案内が掲載されるニュースレターとしての機能も担っております。

今後の本誌の発展のために、皆さまからは忌憚のないご意見を賜り、さらに積極的な投稿や査読へのご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。